

コ ラ ム

夢 物 語

セラミックスやプラスチックをはじめ既に数多くの新素材が開発され、実用に供されつつある。金属でも、アモルファスなど新しい特性と機能を備えた材料が生まれている。鉄鋼材では目下のところ実用的には表面処理技術や被膜形成で高付加価値化をはかっているようで、構造の本質的な新素材化は未開発に近い状態と思われるが、いかがであろうか？

筆者がまだほんの子供の頃、少年向けの冒険小説に「見えない飛行機」(記憶は定かでないが、南洋一郎氏著、講談社刊)という本があつて、透明の鋼材？で造られた飛行機に乗って悪事を働く連中を熱血の少年主人公が退治する物語であつたように憶えている。その後、技術屋の端くれになつた現在では、上の物語で「なぜ透明になるのか」、「どのように造るのか」とい

つた問題に強い関心があるが、フィクションとは承知しつつも肝心の点は一向に思い出せない。この点全く透明である。

振り返つてみると、学生時代の頃でもついで物質が透明になる理論というものを体系づけて教育された記憶がない。当然光学物理の応用問題との漠然とした認識はあるものの工学的アプローチはかきもく見当がつかない実情である。

人間は有史以来さまざまな夢を着実に現実のものとしてきており、現在でもその営みは続いている。「見えない飛行機」の夢は、軍事技術の上で電波工学的に形を変えて実現されていると聞いている。

物騒な話は別にしても、技術の発展を考えると、夢をもつことがいかに大切であるか、論を待つ必要はないであろう。

(住友金属工業(株)総合技術研究所 佐藤 駿)

編 集 後 記

5月号をお届けします。ご愛読下さい。本誌を手にする頃には陽光も強くなり、新芽の色が美しくなつていると思います。

今月号は展望1件、解説2件、技術報告4件、論文14件となつています。昨年掲載された論文と技術報告の総数は198件で技術報告の占める割合は23%でした。各月号ごとに調べて見るとこの割合は8から31%の間で推移していましたが、今月号の技術報告の割合はほぼ今年の年平均並みです。

論文掲載までの所要日数については昨年の編集後記で3度触れてありましたが、今月号については最短8か月、平均13.5か月となつています。査読者とのやりとりの過程で、論文が二分されて再提出されると掲載までの所要日数が見かけ上減つて処理される場合もありますが、現在のところ、掲載までの所要日数は10か月から14か月程度です。

会員に新しい情報を少しでも早くお届けするため編

集委員長、主査、幹事以下委員も事務局も全員努力しておりますが、学会誌としての水準を保つために著者一校閲者一査読者との間のやりとりを等閑にはできませんし、この過程でかなりの時間と費用がかかっています。

今月号の場合、論文受付から掲載決定までの最短期間は3か月ですが、最長の場合には24か月要しており掲載決定までの日数に相当な幅があります。掲載決定から掲載巻号が決まるまでの期間はそれほど長くはありませんし、掲載巻号が決まった後の時間は編集や印刷に必要な期間です。

今までも繰り返して述べられてきたことですが、投稿前にもう一度推敲を重ねていただくと著者一校閲一査読の期間が短縮されるばかりでなく、経費の節約にもなりますのでご協力のほどお願い致します。

(T. E.)